平成26年度

トゥール市青少年親善研修生
派遣報告書

平成26年9月6日（土）～9月20日（土）15日間

Takamatsu International Association
TIA
公益財団法人 高松市国際交流協会

目　次

1. 日程 ………………………………………… 1

2. フォトギャラリー ………………………………… 3

3. 親善研修生　報告書　Ⅰ

香川大学大学院　工学研究科１年　大岡　稜

日誌・活動記録 ………………………………… 5

感想文「トゥールで伝えた高松の文化」 ………………… 18

4. 親善研修生　報告書　Ⅱ

株式会社ザラ・ジャパン　山地　朝子

日誌・活動記録 ………………………………… 19

感想文「トゥールが教えてくれたこと」 ………………… 31

平成26年度　トゥール市派遣　青少年親善研修生日程

日　時	時　間	内　容
9月6日(土)	16:35 17:55 22:15	NH0538 高松空港発 羽田空港着 AF293 羽田空港発
9月7日(日)	4:00 8:19 9:59 10:00	シャルル・ド・ゴール国際空港（パリ）着 TGV5200 シャルル・ド・ゴール駅発 サン・ピエール・デ・コール駅着 サン・ピエール・デ・コール駅お迎え
9月8日(月)	9:00 11:00 14:00 16:00	トゥール市の見学 サン・ガシアン大聖堂 サン・マルタン聖堂とシャトーヌフ地区 バルザック高校日本語授業
9月9日(火)	9:00 14:00 16:00	サント・ウルスール小学校授業 トゥール市大劇場 職人徒弟制度博物館見学
9月10日(水)	10:00 14:00 16:00 18:00	サント・ラドゴンド公園 マルムティエ高校日本語授業 トゥーレーヌ語学学院見学 にゃんこカフェでのイベント参加
9月11日(木)	9:00 15:00	シュノンソー城見学 マルムティエ高校日本語授業
9月12日(金)	10:00 14:00 15:30	アンボワーズ城見学 セグウェイ体験 トゥーレーヌ語学学校
9月13日(土)	15:00	にゃんこカフェでうちわ、書道体験教室
9月14日(日)		ホストファミリーと週末を過ごす
9月15日(月)	10:00 15:00	ロワール・ア・ヴェロ　サイクリング フランソワ・ラブレ大学訪問
9月16日(火)	10:00 15:00 18:00	トゥール市庁舎見学 ディドロ小学校での書道体験教室 トゥール市お別れカクテルパーティ
9月17日(水)	10:15 11:13	TGV8410　サン・ピエール・デ・コール駅発 モンパルナス駅（パリ）着
9月18日(木)		パリ　2泊
9月19日(金)	 17:30	モンパルナス駅よりリムジンバスにて空港へ移動 NH0206　シャルル・ド・ゴール国際空港（パリ）発
9月20日(土)	12:10 17:30 18:45	羽田空港着 NH0537　羽田空港発 高松空港着

Les photographies de souvenirs

Le 6 septembre ~ le 20 septembre 2014
en Tours

親善研修生　報告書　I

日誌・活動記録

香川大学大学院工学研究科１年　大岡　稜

9月6日（土）

直前にならないと行動しない性格もあり出発前日の夜まで、荷造りが終わらずに、寝不足なまま出発日を迎えてしまった。出発日は高松で急な雨が降っており、飛行機が遅れないか心配しながら高松空港へ向かった。高松空港で少し時間があったので、香川のゆるキャラ「うどん脳」のぬいぐるみを買って、フランス人がうどん脳を見てどんな反応をするのか想像していた。高松空港では、高松市国際交流協会の方たちにお見送りをしていただき、この研修をよいものにしようというポジティブな気持ちで出発した。

飛行機は10分程度の遅れで出発できた。羽田空港に到着してから乗り換えるまで、数時間空いていたので、山地さんと日本食を食べて、新国際線ターミナルの商業施設を観光気分で歩き回っていた。フランス行きの飛行機の乗り換えも無事にでき、フランスへと旅立った。

9月7日（日）

フランスへ向かう飛行機では、どんな機内食がでるのか楽しみにしていた。想像していたより豪華なフランス料理の機内食が出てきて、ワインを飲みながら美味しく食べた。しかし、羽田空港でお腹いっぱいご飯を食べていたので、機内食を食べた後はお腹がはちきれそうだった。

シャルル・ド・ゴール空港に着いたのが朝の４時で、空港も閑静としておりTGVの乗車時刻までベンチで座って時間を潰していた。朝の７時くらいになると周りも人でいっぱいになり、見渡す限り外国人でフランスに来たことをやっと実感した。TGVの乗り場を見つけるのも一苦労だったが、なんとか見つけることができた。TGVの中では移動の疲れからかフランスの景色を眺めていたらいつのまにか眠ってしまっていた。

サン・ピエール・デ・コール駅に到着すると、コーディネーターの伴さん、トゥール市役所のダヴィットさん、それぞれのホストファミリーの方が出迎えてくれた。挨拶をした後は、ルイスさん(ホストファーザー)の車でお家へ連れて行ってもらった。着いてすぐ、パンとチーズのおもてなしをしてもらった。ルイスさんは日本語の勉強をしてらっしゃるようで、簡単な日本語で話しかけてくれ、とても嬉しかった。ルイスさんはスペイン人で、ホストマザーのエレナさんはドイツ人とのことだった。私に話しかけてくれるときは、簡単なフランス語か英語、もしくは日本語で言ってくれ、わからない言葉があればスペイン語・日本語の辞書で調べてくださり、ファミリー内での会話もいろいろな言語が飛び交い、なんだか面白かった。ルイスさんは日本のことがとても好きみたいで、日本から持ってきたお土産を渡すととても喜んでくれていた。お腹に赤ちゃんがいるエレナさんには安産祈願のお守りをプレゼントした。私のつたない説明で安産祈願の意味が伝わったよう

で嬉しかった。

お昼からは、ルイスさんが日本語を教えて貰っている先生のお家にランチを食べに行った。ランチはクレープがメインで、1度に4枚焼ける家庭用クレープ機を使って、おかずのクレープとデザートのクレープをどんどん焼いてもらった。具はいろいろな種類を用意してくださって、「好きなものをのせて自由に食べるのよ」と言っていて、日本の手巻き寿司に似ているなと感じた。日本と違うのは、ランチタイムからワインをどんどん飲んでいたことで、私も勧められるままにワインをたくさん飲んで、少しいい気分になっていた。デザートと一緒に飲んだシードル(りんごのお酒)はとても美味しかった。3時間くらいランチをしながらおしゃべりしており、とても楽しい雰囲気だった。

「ランチで食べたクレープ」

ルイスさんのお家に帰ってからは、みんなお腹いっぱいだったので、スペインのフルーツ(ザクロとサボテンの実)をディナーの代わりに食べながら、スペイン語、ドイツ語、フランス語の辞書を出してクイズをしていた。トゥールに来るまでは、ホームステイ先でうまく生活できるか不安だったが、実際はホームホストファミリーの方にとてもよくしてもらって仲良くでき、これからのホームステイでの不安がなくなった1日だった。

「3ヶ国語の辞書」

9月8日（月）

ホームステイ先での朝食は、毎日パンにいろいろな種類のチーズを乗せて食べるようだ。どのチーズもとても美味しかった。お腹いっぱい朝食を食べた後、エレナさんと歩いてトゥール市庁舎まで向かった。トゥール市庁舎がとても綺麗で、いつまでも眺めていたくなった。

伴さん、ダヴィットさんと合流し、簡単な打ち合わせをした後、ダヴィットさんとトゥール市内を歩いて見学した。午前は、トゥール駅、観光案内所、サン・ガシアン大聖堂、トゥール市美術館などを回った。どの場所もとても素晴らしく、ずっと感動していた。観光案内所には、カウンターに担当の人が何人もいて、観光客の質問に答えていた。また、さまざまな観光案内のパンフレットが置いてあり、日本語の観光案内も見つけることができた。トゥール市の観光に対して力を注いでいることが実感できた。

「観光案内所のカウンター」

お昼は、フランス料理のガレットを食べた。ガレットはそば粉の生地を薄く焼いたものの上に肉やチーズなどを乗せて食べる料理で、生地がもちもちしていて、とても美味しかった。午後は、引き続きトゥール市のサン・マルタン聖堂、ロワール川沿いを見て回った。トゥール市内に山地さんが勤めているZARA(フランスではザハと発音するらしい)があり、見学した。

その後に、バルザック高校の日本語授業に参加してきた。まず、ダヴィットさんが高松とトゥールが姉妹都市の関係であり、さまざまな活動をしていることを紹介してくださり、私たちの簡単な自己紹介を行った。日本語を勉強しているクラスということで、私たちも簡単な日本語だけでゆっくり自己紹介した。みんな日本語を聞き取ってくれていて、名前や年齢などのクイズをしたが正しく答えてくれた。自己紹介の後、山地さんは歌の披露、私は高松市の紹介を動画で行った。高校生の反応がとても良く、嬉しくなった。短い時間だったが、高校生たちと仲良くなれた気がした。この日は、ずっと歩いていたのでホームステイ先でディナーを食べてすぐ眠りについてしまった。

「バルザック高校の生徒達」

9月9日（火）

「習字に一生懸命な子供たち」

朝早くに、伴さんとトゥール市役所のコリンヌさんとサントウルスール小学校の小学生たちに折り紙と習字を教えに行った。私たちは浴衣を着て授業をしたので、小学生の子たちは浴衣に興味津々だった。簡単な自己紹介の後、折り紙をするクラスと、習字をするクラスに分かれた。私は習字クラスの担当で、１人で10数人の小学生を相手にすることになり最初はとても不安だった。まずお手本を書き、それを真似する形で小学生たちに習字をしてもらった。どの子もとても興味を持ってくれて、自分の書いた作品を自慢していた。言葉は通じなくても、身振り手振りで習字を教えることができ、とても楽しかった。体験教室が終わるときには、小学生の子が「ありがとう、またね」と日本語で言ってくれ抱き付いてきてくれたのが、本当に嬉しかった。

ランチに伴さんととても素敵なフレンチを食べた後、コリンヌさんも合流してトゥール市大劇場を見学した。オペラ座の見学ということもあって、声楽の活動をしている山地さんのテンションはマックスだった。山地さんがステージで歌うのを聞くことができとても感動した。次に、職人徒弟制度博物館を見学した。コンパニョナージュと呼ばれる、職人育成のための組織があり、この博物館では、さまざまな職種の技術を目にす

「トゥール市大劇場広報のイザベルさんと」

することができた。お城の模型、木の加工物など様々な作品があり、職人の技術、技術を得るためのプロセスを知ることができた。

帰宅後は、クリスさんと一緒に晩御飯を作った。クリスさんはスペイン人なので、スペイン料理の「ズッキーニのクリームスープ」を作った。クリスさんは昔レストランで働いていたことがあり、手際がとてもよかった。食材を煮込んでいる間に、お互いの共通の趣味であるビデオゲームで遊んだ。完成した料理はとても美味しかった。料理を食べたあとは、クリスさんとチェスをして遊んだ。クリスさんとは年もあまり離れていないので、お父さんというよりお兄さんという感じだ。

9月10日（水）

今日は、朝一でクリスさんとパンを買いに行った。フランスのパン屋さんは初めてで、フランスパンがずらっと並んでいてびっくりした。その後、エレナさんとトゥールの街を散歩しながら、待ち合わせ場所である市庁舎まで向かった。

「マルムティエ高校にて高松の紹介」

伴さん、ダヴィットさんとサンドウィッチを買って、サント・ラドゴンド公園で食べた。この公園には、高松から送られてきた桜が植えられており、高松を紹介する看板も立てられていた。ランチを食べた後は、近くのマルムティエ高校にいき、日本語を学ぶクラスで自己紹介と高松の紹介を行った。高校生たちも日本語で自己紹介してくれ、嬉しかった。授業が終わった後も高校生の子たちと少し交流し、短い時間だったけれど仲良くなれた気がした。

その後は、フランス語の語学学校であるトゥーレーヌ語学学院を見学した。とても多くの国籍の人がフランス語を学びに来ており、学校の中を見学中に日本人の学生とも出会った。学校の中もとても綺麗で、設備も整っており、私もこんな場所でフランス語を勉強したいなと感じた。

「にゃんこカフェ」

夜からは、にゃんこカフェにてうちわ作り教室を行った。にゃんこカフェは日本の漫画喫茶のような場所で、日本の漫画が多く置かれていた。うちわ作りは、6人の方に参加していただくことができた。うちわの作製手順をフランス語でどう説明するか悩んでいたが、偶然フランスに留学している日本人学生4人がにゃんこカフェに来ており、教室の手伝いをしてもらうことができた。身振り手振りでなんとかうちわを完成させることができた。研修で様々な場所に行って、様々な出会いがあることに喜びを感じた一日だった。

9月11日（木）

昨日は遅くまで研修があったため、とてもぐっすり眠れた。午前は伴さんの車で、シュノンソー城へ向かった。伴さんにシェノンソー城のことを教えていただき、シュノンソー城は貴婦人たちの城であり、様々な女性から愛され作られていったお城であることを知った。城内の各部屋や、庭園にも造った女性の特色が出ていて面白かった。伴さんの話によるとシュノンソー城は、音声ガイドとしてiPodが用いられており、音声だけでなく、ビデオも流れるとのことだった。このような観光アプローチをしているのは素晴らしいと感じた。

「シュノンソー城」

トゥールに戻り、伴さんとランチをいただいた。この日は、子羊の煮込みを食べた。とても美味しかったのだが、前菜から合わせると量がとても多くお腹がいっぱいになった。山地さんはサラダを頼んでいたのだが、そのサラダも量がとても多く、苦戦していた。食事が終わった後には２人そろって「もう食べられない…」と言っていた。

「ボリュームのある子羊の煮込み」

その後は、昨日行ったマルムティエ高校でもう一度、日本語を学ぶクラスの高校生に自己紹介と高松の紹介を行った。今回のクラスには、山地さんのホームステイ先の娘さんであるセリアちゃんが来ていた。高校生から日本語で多くの質問をしてくれ、フランスの高校生と日本語でコミュニケーションを取れることに嬉しさを感じた。私が行った高松の紹介も興味深く聞いてくれとても嬉しかった。

夜は、ルイスさん、エレナさんと買い物をしたあと、ルイスさんがスペイン料理のトルティーヤを作ってくれた。トルティーヤは日本でいうオムレツで、とても美味しかった。ホームステイ先でフランス料理とスペイン料理の2つを楽しむことができ幸せを感じた。

9月12日（金）

今日は伴さんの車で、アンボワーズ城へと向かった。アンボワーズ城はフランス歴代の国王が居住されていたお城で、昨日行ったシュノンソー城とはまた違ったお城であることを教えていただいた。アンボワーズはレオナルド・ダ・ヴィンチが晩年を過ごした場所であり、城内のチャペルにダ・ヴィンチが眠っていると知り、とても偉大な場所に来ているのだと実感した。アンボワーズ城から少し歩いたところには、ダ・ヴィンチが最後の3年間を過ごしたとされるクロ・リュセ城があり、そこも見学した。クロ・リュセ城には、ダ・ヴィンチの様々な発明品が展示されてあった。レオナルド・ダ・ヴィンチといえば画家のイメージが強かったが、実際は建築や数学、発明、化学など様々な分野で才能を発揮した人物であることをクロ・リュセ城の見学で知ることができた。その当時から見れば画期的

な発明品を多く見ることができ、ダ・ヴィンチは本物の天才だったのだなと感じた。

お城を一通り見た後は、セグウェイに乗れるとのことだったので、セグウェイ乗り場へと向かった。セグウェイの簡単な指導を受けた後、実際にお城をセグウェイで回った。セグウェイは体の傾きだけで前進・後退・回転をすることができ、乗っていてとても楽しかった。ただ、走ったコースには傾斜があってとても狭い道もあり、慎重に乗っていた。セグウェイ乗り場に来た人が感想を書くノートがあり、そこに去年の研修生の三浦さんと武上さんの書き込みを見つけ、なんだか嬉しくなった。今年もしっかり書いたので来年の方にもぜひ見つけてほしい。

「セグウェイに乗ってお城巡り」

お城見学の後は、トゥーレーヌ語学学院に行き、日仏文化交流活動をされている麗子さんと日本語を学んでいるフランスの方との交流を行った。自己紹介や高松の紹介を簡単な日本語で行ったが、皆さん理解してくれ、多くの質問もしてくれた。楽しく交流ができとても楽しかった。

「トゥーレーヌ語学学院にて」

その後、ルイスさんお気に入りのアイスクリーム屋さんに行った。とてもいろいろな種類のアイスクリームが並べられており、どの味にするか悩みに悩んでしまった。3種類食べたが、どれもとても美味しかった。ホームステイ先に帰ってからは、ルイスさんとエレナさんがピザを作ってくれた。チーズや野菜、スペインのスパイシーなソーセージのチョリソなどを使った具だくさんピザでとても美味しかった。ディナーの後は、ルイスさんとチェスの再戦をしたが、あっけなく負けてしまった。

9月13日（土）

午前はルイスさんとテニスをする約束だった。山地さんも誘ってみんなでテニスコートに向かった。山地さんのホームステイ先に迎えに行ったときに、高松に長く住んでいたことのあるソフィーさんに出会った。山地さんのホストファミリーが、長女のカミーユちゃんのお見送りでパリに出かけているようで、ソフィーさんが1日だけ来ているとのことだった。ソフィーさんは日本語もペラペラでとても明るい人だったのでもっと話してみたかった。

テニスコートに着くと、屋内でスカッシュを行うスペースを見つけた。スカッシュは屋内の四方を壁に囲まれたコートで、2人がラケットを持ち、ボールを交互に打ち返すスポーツで、名前だけは知っていたが見るのは初めてで新鮮だった。いつかチャレンジしてみたい。

いざテニスをすることになったが、私は中学から大学までずっとテニスを続けていたので、テニスには少し自信があった。簡単なストレッチをした後、テニスを楽しんだ。山地さんもテニス経験があり、華麗なスマッシュを決めていた。少し遊んだあとはルイスさん

と試合をした。ルイスさんもかなりテニスが上手で、接戦の試合だったがなんとか勝つことができた。１時間のテニスだったが、汗だくだくでとても疲れてしまった。

テニスも終わって、ホームステイ先に帰った時に事件が起こった。ホームステイ先にはエレベーターがあるのだが、ずっと故障中だったのが昨日ようやく直ったようで、「今日はエレベーターが使えるよ」と言いながらみんなでエレベーターに乗り込んだ。少し上がったところでエレベーターが止まり、ガクンと乗り込んだ位置まで落ちてしまった。これは大変だとエレベーターから出ようとしても、扉が開かず中に閉じ込められてしまった。ルイスさんが緊急ボタンを押し、数分後になんとか出ることができたが、エレベーターに閉じ込められるなんて人生初の経験でびっくりしてしまった。

なんとか帰宅した後は、ルイスさんがレンテハスと呼ばれるじゃがいも、チョリソ、レンズ豆を煮込んだスペインの家庭料理を振る舞ってくれ、みんなで美味しく食べた。ランチを食べた後は、テニスの疲れもあり少しお昼寝をした。

午後からはにゃんこカフェでうちわ作り教室を行った。土曜日ということもあって、前回より多くの人に来ていただいた。前回手伝ってもらった日本人留学生の方も来てくださり、今回も手伝っていただいた。にゃんこカフェに集まるフランス人の方は、日本の漫画やゲーム、アニメが好きな人が多いようで、私も漫画やゲームが好きということもあって楽しく会話することができた。うちわ作りも2回目ということで、順調にできた。しかし、持ってきたうちわがかなり余ってしまい、勿体ないので火曜日に行く小学校の生徒たちにうちわをプレゼントすることにした。そこから25個のうちわ作りミッションがスタートした。日本人留学生の方や、教室に参加していただいたフランス人の方にも手伝ってもらって、１時間程度でなんとかうちわを完成させることができた。特に、教室の手伝いと大量のうちわ作りを手伝っていただいた日本人留学生の方たちには感謝の気持ちでいっぱいである。

「伴さんの書道」

教室が終わった後は、ルイスさんとエレナさんにスペイン料理屋に連れて行ってもらった。このお店は、ビュッフェ形式で好きなものを食べていいとのことだった。どの料理もとても美味しかった。特にパエリアは美味しく、ご飯を食べるのも久しぶりだなと思いながらついつい食べ過ぎてしまった。帰宅した後はお腹がいっぱいですぐに寝てしまった。

「スペイン料理のビッフェ」

9月14日（日）

前日の疲れもあり、午前はゆっくり過ごしていた。荷造りをしようと考えていたが、全然進まなかった。パリへ行く前夜が心配になった。それと、エールフランスが明日9月15日から9月22日まで、運航乗務員のストライキを行うというニュースを聞き、ちょうど帰国の

タイミングなので、無事に飛行機が飛ぶかどうか心配だった。

お昼からは山地さんのホームステイ先にお邪魔し、みんなでランチを食べた。７人一緒にランチを食べ、いろいろな会話が飛び交いとても楽しかった。料理もとても美味しく、メインからデザートまでお腹いっぱい食べた。セリアちゃんが日本語を勉強していて「稜はとてもおもしろい人です」という日本語を覚えていたと山地さんから聞かされて、とても面白かった。どうせなら「稜はとても魅力的な人です」と覚えて欲しかった。

「みんなで一緒にランチ」

お昼を食べた後は、みんなで家の周りを散歩した。ロワール川が一望できる場所や広大なぶどう畑があり、とても楽しかった。しかし、１時間半くらいずっと歩いていたのでとても疲れてしまった。

ホームステイ先に帰宅した後は、シャワーを浴びてすぐに寝てしまった。明日は、自転車での長旅なのでしっかり体力を残しておきたい。トゥールでの生活もあと数日となり、なんだか寂しくなってきた。

「ロワール川を眺めながら散歩」

9月15日（月）

今日は自転車でヴィランドリー城までサイクリングする日だ。ロワール川沿いに「ロワール・ア・ヴェロ」という自転車専用道路が整備されており、全長は800kmもあるそうだ。トゥールからヴィランドリー城までは往復40km程度あると聞かされて、無事帰ってこられるか不安だった。私が自転車に乗るのは、高校生以来で５年振りだったので、ちゃんと乗れるかも心配だった。市役所で自転車を借り、伴さん、コリンヌさんと一緒に出発した。実際にロワール・ア・ヴェロを走ってみると、自転車専用に整備されているので、自動車や歩行者を気にせずに走ることができ、とても快適だった。サイクリングしながら見る風景も広大な自然ばかりで、走っていて気持ちがよかった。しかし、片道20kmの道のりはやっぱり長く、コースの後半になると疲れが出て、息が切れてしまった。

「ヴィランドリー城の装飾的庭園」

なんとかヴィランドリー城にたどり着いた時には、足がとても痛くなっていた。ヴィランドリー城は、城そのものより、幾何学模様の庭園が有名なお城である。1906年にヨアキム・カルヴァロが城を買い取り、その際に庭園を造ったそうだ。個人所有の城ということもあって、城内には実際住んでいた人の写真が飾られてあったり、子供部屋があったりしていた。庭園はとても美しく、私は装飾的庭園が気に入った。この庭園は４つの正方形の庭園から作られて

おり、それぞれの庭園に意味がありそこが面白かった。またさまざまな種類の野菜が育てられている菜園もあり、３年周期で植えかえられていることを知りとても手入れが大変そうだと感じた。

お城見学の後は、すぐ隣にあるレストランでランチをした。前菜、メイン、デザートとどれも美味しく幸せな気分になれた。メインはうさぎの煮込みで、うさぎは初めて食べたが鶏肉のような食感でとても美味しかった。しかし、帰りのサイクリングをすっかり忘れてお腹いっぱい食べてしまったため、帰り道は本当につらかった。

疲れもピークでようやくトゥールまで帰ってきた後、フランソワ・ラブレ大学に見学に行った。大学では、ルート案内やGPSを用いて人間の動きのデータ分析などの研究を行っている先生方の話を聞くことができた。私は大学院の研究で位置情報を用いた観光支援を行っており、自分が行っている研究の説明をする機会を与えて頂いた。先生方から研究に対する質問、アドバイスを頂くことができとても貴重な体験になった。また似た分野の研究説明を聞くことができ、とてもためになった。今回の経験を生かして、より良い研究ができるよう頑張りたい。

「大学にて研究の説明を聞く」

ホームステイ先に帰宅してからは、どっとサイクリングの疲れがきた。今日はしっかり休んで、明日のトゥール最終日に向けて体力を残しておきたい。

9月16日（火）

午前は、山地さんと２人でショッピングをした。私は、お土産用のお菓子やワインを買った。だんだんとユーロでの買い物にも慣れてきた気がする。２人でトゥールの街を歩くのは初めてだったので道に迷わないか少し心配だったけれど、問題なく集合場所のトゥール市庁舎に戻ってくることが出来た。

トゥール市庁舎に戻り、伴さん、ダヴィットさんと合流し、市庁舎内の見学を行った。中に入ると、正面にはレッドカーペットが敷かれた石造りの正面階段があった。内装も豪華な装飾が施されていて、天井もとても凝った装飾で綺麗だった。2階には、いくつかの部屋がありレセプションや結婚式などの催し物が定期的に行われているとのことだった。また、会議に使われている部屋などの見学も行った。市庁舎での行政の業務は、市庁舎で行っているわけではなく、裏にある新市庁舎で行っているとのことだった。昔の建物を残しつつ、うまく役割を分けられていると感じた。

市庁舎見学の後は、伴さん、コリンヌさんと一緒にランチを食べた。食堂のようなところで、サラダ、メイン、デザートと好きな皿を取っていく形式だった。トゥールに来てから食べ物がとても美味しく、ついついたくさん食べてしまっている。

午後は、ディドロ小学校に向かい習字の授業を行った。にゃんこカフェで作ったうちわ25個に、「友」、「幸」、「成」のどれかを選んで書いてもらうことにした。最初に見本を書き、それを真似してもらう形でうちわに文字を書いてもらった。子供によって、文字

を大胆に大きく書く子や、書き順などを気にしながら見本に忠実に書く子などがいて、性格によって書き方が変わるんだなと思い面白かった。作ったうちわに、私たちのサインをしたのだが、みんな私も書いてと近づいてきてくれてとても嬉しかった。教室の終わりにはみんなでありがとうと言ってくれ、研修生としてこのような機会を与えて頂けることに喜びを感じた。

その後は、トゥール市庁舎でのレセプションに向かった。レセプションには、いままでに行った高校の生徒、にゃんこカフェで出会った日本人留学生、語学学校の先生などトゥール市での研修で出会ったとても多くの人に参加して頂き、このような場を用意してくださったこと、私たちのために来てくださったことに喜びを感じると共に、研修生として与えられた使命を果たさなければと強く感じた。最初に、市議会議員のテバルディさんから私たち研修生の紹介があり、その後にそれぞれが挨拶を行った。山地さんは日本の歌曲であるさくらさくらを披露しており、とても素敵だった。私は、タブレットで作成した高松市の紹介をテレビに繋いで映す予定だったが、ケーブルの調子が悪く本番の際に映すことができなかった。タブレットの画面での紹介になり、皆さん興味を持って聞いてくださったが、大きな画面で紹介できなかったことが残念だった。その後、高松市長からの手紙を朗読することになり、とても緊張した。ババリー市長にお会いできなかったのは残念だったが、来月、高松市で開催される日仏会議に来られるとのことなので、その時にご挨拶したい。最後に、テバルディさんからトゥール市からのプレゼントを頂いた。私には、料理本とエプロンをプレゼントして頂いた。これから料理ができる素敵な男性になれるよう頑張りたい。

「トゥール市庁舎でのレセプション」

トゥールでの最後のディナーは私たちのホストファミリーが集まって、ガンゲットへ行った。ガンゲットは、ロワール川沿いにある食事やダンスが楽しめる場所である。ダンスはしなかったが、実際にダンスホールもあり屋外のテーブルで食事を楽しんだ。いろいろな話をし、本当に楽しいディナーだった。ガンゲットから帰宅する車の中で、明日でトゥールを出発するのかと思うと、とても寂しくなった。

「ガンゲットで最後のディナー」

9月17日（水）

朝はホストファミリーとの最後の食事だった。ホームステイ先では、毎朝いろいろな種類のパンとチーズを出してくれて、美味しく飽きない朝食だった。最初は苦手だった青カビチーズも、毎日食べていると美味しく感じるようになった。お腹いっぱい朝食を食べた後、ルイスさんは仕事に行かなければならないとのことでお別れをした。最後に「ここは稜の家でもあるから、いつでも戻ってきていいんだよ」と言われてとても嬉しかった。ル

イスさんとのお別れのあと、伴さんにホームステイ先まで迎えに来て頂き、エレナさんと一緒にサン・ピエール・デ・コール駅まで向かった。

サン・ピエール・デ・コール駅では、ダヴィットさん、コリンヌさんも見送りに来てくれた。トゥールでは本当にたくさんの方にお世話になり、皆さん本当に優しい方たちだった。いつかまたトゥールに戻ってきて、皆さんとお会いしたいと心から思った。お別れの後、重いスーツケースをなんとか持ち上げTGVに乗り込んだ。パリのモンパルナス駅までは1時間ほどで付く予定だったが、私も山地さんも荷造りでほとんど寝ていなかったので、車内では2人共ぐっすり寝ていた。

「トゥールとのお別れ」

モンパルナス駅に着いてまずホテルを探した。駅から近い場所にあるホテルなので、すぐ見つかるだろうと考えていたが、たくさんの荷物と一緒なので見つけるのに少し時間がかかってしまった。ホテルに無事着いて、チェックイン時間まで数時間あったので、荷物だけ置かせてもらい、パリ観光をすることにした。モンパルナス駅からメトロ6号線一本でエッフェル塔と凱旋門に行けると聞いていたので、その2つを目標にメトロに乗った。フランスに行く前にパリのメトロはスリが多いと聞いていたので、内心ビクビクしながら乗ったのだが、怖い思いをすることはなかった。まずエッフェル塔に向かった。テレビではよく見るエッフェル塔だが、近くで見るととても迫力があった。エッフェル塔のすぐ側にはシャン・ド・マルスという公園が広がっており、公園を歩きながらエッフェル塔をずっと眺めていた。

「手乗り？エッフェル塔」

エッフェル塔を後にし、近くでランチを食べた。いつもレストランでの食事の時には伴さんが一緒で注文をしてくれていたので、2人で無事頼めるか心配だったけれど、英語メニューもありなんとかなった。レストランの近くにはパリ日本会館という施設があった。中には、日本の文化に関するものがたくさんあり、パリにこのような施設があるのかとびっくりした。

もう一度メトロに乗り、次は凱旋門に向かった。凱旋門は地下を通って門の下まで行くことができた。実際に近くで見る凱旋門もこれまた迫力があった。凱旋門全体に彫刻が施されておりとても綺麗だった。しかし、私は凱旋門の迫力よりも、凱旋門の周りに環状道路があり、車線もなく多くの車が入り乱れていて事故が起きないんだろうかとそっちの方が気になっていた。

凱旋門を見た後は、2人共とっても疲れていたので、シャンゼリゼ通りは歩かずホテルにまっすぐ帰宅した。この日は、夜に自治体国際化協会パリ事務所駐在で高松市職員の細川さんとお会いする約束をしていたので、約束の時間まで仮眠をとって過ごしていた。夜に細川さんにホテルまで来て頂き、近くのお店で楽しいお話をしながらガレットとクレープを食べた。細川さんには、パリでのアドバイスをして頂いたり、空港までのシャトルバ

スの予約を手伝って頂いたりと、本当に感謝の気持ちでいっぱいである。ホテルでシャトルバスの予約をして頂いている際、スーツケースのはかりがホテルにないかカウンターの方に聞いてもらったのだが、ホテルにはないけれど、自宅から持ってきてくれると言ってくれ、ホテルの人の優しさにも感動した。ホテルに戻った後は、疲れも残っていたのですぐに寝て、明日の体力を回復させた。

9月18日（木）

朝起きて、高松市国際交流協会から１通のメールが来ていた。内容は、帰りに乗る予定のエールフランスの飛行機がストライキの影響で欠航するとあった。しかし、同じ日の午後のANAの便を手配してくださっているとのことだった。航空券の印刷やシャトルバスの時間変更などをしなければならなかったが、細川さんが夜に来て頂けるとのことで安心だった。この研修でトラブルもなくここまで来ていたが、まさか最後に飛行機が欠航とは想像もしていなかった。欠航で数日フランスに長く滞在できるならそれでもいいなと思っていた自分がいたことは内緒である。

朝は飛行機の欠航が決まり、バタバタしたが気を取り直してパリ観光へ向かった。今日はまずルーブル美術館へ向かった。ルーブル美術館は１枚１枚鑑賞していると、何日もかかるようなので、有名な作品だけ見ることにした。モナリザ、サモトラケのニケ、ミロのヴィーナスと有名な作品を回った。特にモナリザの周りは人がとても多く、ゆっくり鑑賞できるという感じではなかった。これだけの作品を見て回るのにもかなり歩いた。ルーブル美術館では任天堂の3DSを持って歩いている人が多くいて、なんだろうと思っていたが後で調べると館内のオーディオガイドとして3DSが使われているとのことだった。またルーブル美術館の照明に東芝のLED照明が使われていると聞いて、日本の技術がルーブル美術館に活かされていることに日本人として誇りを感じた。ルーブル美術館を見た後は、ルーブル地下のフードコートのようなところに行った。そこで偶然日本からパリに一人旅に来られている男性と出会い、一緒に楽しくランチを食べた。

ルーブル美術館を後にして、次はオペラ座へ向かった。今日は残念ながら公演がなかったので外観だけ眺めた。山地さんは憧れのオペラ座に来れてとても感動していた。次に来るときには是非オペラを見たい。

オペラ座の次は、サクレ・クール寺院に向かった。サクレ・クール寺院は、パリで最も高い丘であるモンマルトルの丘の上にあり、丘を歩いて登るのがなかなか大変だった。しかし、丘を登ってある高台テラスから見る風景はパリを一望でき、登った疲れを忘れるほど感動した。

「サクレ・クール寺院にて」

サクレ・クールの次は、シテ島にあるノートルダム大聖堂に向かった。ノートルダム大聖堂の周りをぐるっと回ったがどの角度から見ても絵になっていた。シテ島を歩いている時に通り雨が10分ほど降ったのだが、フランスに来てからずっと雨がふらず晴

天だったので久しぶりの雨にびっくりした。たった10分しか降らなかったが、カバンの中に常備していた新品の折りたたみ傘をやっと使うことができてよかった。こうしてパリを満喫してホテルへ帰った。

ホテルへ戻って、細川さんと合流し、印刷していただいた航空券を受け取り、シャトルバスの時間変更までして頂いた。相変わらずカウンターの方は優しく対応してくれた。手続きを終え、パリ最後の夜は、モンパルナスにそびえ立つ高さ209mの超高層ビル、モンパルナスタワーに登ることにした。モンパルナスタワーは屋上を開放していて、夜景が見られるので行こうということになった。56階までエレベーターで行き、屋上の59階までは階段で上がったのだが、屋上からみるパリの夜景はいままでみた景色の中で一番綺麗だった。ライトアップされたエッフェル塔を中心に、パリ市内の夜景が一望できた。今後、パリでのオススメスポットを聞かれたら、モンパルナスタワーから見る夜景と答えるだろう。

「モンパルナスタワーから見る夜景」

タワーから降りた後は、近くのレストランでワインを飲みながら山地さんと今回の研修を振り返っていた。毎日充実しており、本当にあっという間だった。

9月19日（金）

飛行機の便が午後に変更になったので、午前中の時間を使って、荷造りを行った。スーツケースはフランスに来た時より、明らかに重くなっており、いろいろな思い出が詰まっていると感じると同時に、荷物の超過料金を支払わなければならないのではないかと心配だった。荷造りを終え、ホテルで予約していたシャトルバスに乗り込んで空港まで向かった。空港までの道のり、パリの風景を眺めていると本当に帰るんだなと寂しく感じた。

無事空港につき、荷物の預け入れをすると案の定スーツケースは2kg超過していた。超過料金を払う覚悟だったが、優しいカウンターのお兄さんが見逃してくれ、助かった。そんなこんなで日本へ向かって出発した。

9月20日（土）

約12時間の長旅を終え、成田空港に到着した。長時間のフライトで２人共疲れていた。エールフランスからANAにフライトが変更になった関係で、成田空港から羽田空港への移動があった。羽田空港に着いてから、高松へ出発する便まで時間が合ったので、山地さんと羽田空港でうどんを食べた。私はフランスに２週間いて１番恋しかった料理がうどんだったので、根っからの香川県民だと思う。

羽田空港から高松へ向かう飛行機は、あっという間に到着した。高松空港では、高松市国際交流協会の馬場さん、多田さんが出迎えに来てくださっていた。無事高松に帰ってきて、２週間の研修が終わった。今回の研修で、様々な経験をすることができ自分の成長に繋げることができたと感じている。

親善研修生　報告書Ⅰ

感想文

トゥールで伝えた高松の文化

香川大学大学院工学研究科　1年
大岡　稜

今回の研修に応募した目的は、高松市の文化を姉妹都市であるトゥール市の方々に知ってもらうこと、またトゥール市の文化・生活を学ぶことだった。2週間の研修でこれらの目的を達成することができ、非常に実りのある研修となった。

私は大学院で観光に関する研究を行っており、その土地の文化を観光客の方にいかに知っていただくかを日々考えていた。今回は、トゥール市の方々に高松市を知っていただくために、高松市を自分の足でまわり、栗林公園、玉藻公園、屋島、うどんなどの動画を撮影して、高松を映像コンテンツで紹介するシステムを開発した。

トゥール市では、いくつかの高校、一般の方、市役所の方など多くの方たちの前で高松市を紹介する機会を与えて頂いた。どの方も興味を持って高松市の紹介を聞いて下さり、多くの質問を頂くことが出来た。中には高松市に是非行ってみたいと言ってくださる方もおり、私の紹介で高松市に興味を持ってもらえたことがとても嬉しかった。また高松市の紹介だけでなく、小学生を対象とした習字・おりがみ教室や、一般の方を対象にしたうちわ作り教室を行い、日本の文化を体験して頂くこともできた。このように日本・高松の文化を、姉妹都市であるトゥール市の方々に知って頂くことができ、大きな喜びを感じることができた。

またトゥール市で10日間のホームステイをし、トゥール市内の様々な場所の見学を行い、トゥール市の文化を知ることも出来た。歴史的建造物が多く残るトゥール市だが、市内にはトラムと呼ばれる近代的な路面電車が走っており、歴史的な文化と近代文化の調和がとれた美しい街という印象を受けた。トゥール市では、ホストファミリーを始め多くの市民の方と交流することができ、トゥール市での生活についても知ることが出来た。トゥール市の大学では、自分の研究と近い分野の研究をされている先生の話を聞くこともでき、研究のアドバイスをして頂くなど、研究面でも多くのアイデアを得ることができた。

以上のように、今回の研修では高松市の文化を伝え、トゥール市の文化・生活を学ぶことができた。また、研修を通じて自分の研究に生かせることも多く学ぶことができた。研修での2週間は本当に充実しており、様々なことを経験し自分の成長に繋げることができたと感じている。この経験を、今後の学習や研究に生かして、グローバルに活躍できるエンジニアになりたい。今回の研修でお世話になったすべての方に感謝の気持ちでいっぱいである。

親善研修生　報告書　II

日誌・活動記録

株式会社ザラ・ジャパン　山地朝子

9月6日（土）

いよいよ出発当日。15時半に空港集合だったため家を14時半に出発にしていた。いつもギリギリの私が全ての準備を終えたのが14時20分。忘れ物がないか何度も何度も確かめた。

親に車で空港まで送ってもらっている間はずっと「フランス料理は美味しいかな」とか「どんな国かな」などと他愛もない会話をしていた。このとき緊張50%、期待50%。

空港に着くとすでに高松市国際交流協会の馬場さん、多田さん、旅行会社の田井さん、研修生の大岡君、皆すでに来ていて、顔を見ると少しホッとした。荷物を預け、見送られ、ゲートを超えたとき「今から始まるんだな！」と、気合いが入った。

羽田空港に着き、もうしばらくは日本食を食べることができないので最後に天丼とうどんをたんまり食べて国際線に乗り込んだ。緊張していたのが嘘みたいにたった何分かで眠りについてしまった。

9月7日（日）

フランスに午前４時到着。機内食を食べている間以外はずっと寝ていたといっても過言ではないくらい爆睡していたので体力に不安はなかったものの、空港内はほとんど電気がついておらず人通りも少なく、またどっちの方向に歩けばいいのか見当もつかず戸惑った。ひとまず椅子に座り周りを見渡し、読めない電光掲示板と格闘し、なんとか予定通りＴＧＶに乗ることができた。１時間程でサン・ピエール・デ・コール駅に到着し、ＴＧＶから降り、左右どっちに進めばいいのか悩んでいると、「こんにちはー！！ボンジュール！！」と聞こえ、振り返るとコーディネーターの伴さんとホストファミリーが来てくれていた。挨拶と簡単な自己紹介を済ませたあと自分のホストファミリーと一緒に家へと向かった。車内では「フランスには来たことがあるのか」「日本はどんな国なのか」などとお互いの生活や国について話した。また、私のホームステイ先は市内から車で20分ほど離れていて、とても閑静で、美しい自然と建物に囲まれていて暮らしやすそうな街だと思った。

家に到着すると娘さんたちが出迎えてくれた。私のファミリーはご両親と三姉妹の５人家族で、次女のカルメンちゃんは国外の大学に留学しているため会うことはできないということで残念だったが、娘さんたちは日本語の勉強をしているうえに、長女のカミーユちゃんは来週末から日本の大学に１年も留学するということで、ご家族みんな日本に興味があり会話が弾んだ。家の中にも扇子や浴衣など日本のものがたくさんありとても嬉しくなった。また、挨拶程度しかフランス語を話せない私には英語で話してくれ、時々「これは日本語では何て言うの？」などと聞いてくれ、コミュニケーションがうまくとれるのかを最も心配していたので安心した。

「ホームステイ先での部屋」

その後、「旅の疲れもあるから好きなだけ寝ておいで」というご家族の言葉に甘えて夕方まで寝かせてもらった。

目が覚めるとすでに夜ご飯の時間だったのですぐにキッチンへ向かっていると、とてもいい香りがした。前菜から始まり、サラダ、メイン、チーズ、デザート、紅茶、とどこかの高級レストランで食事をしているような気分で、家族との会話を楽しみながら、ゆっくりといただいた。初日ということで少し緊張していたが、すぐにうち解けることができてホッとした。これからの研修や生活への不安は多少あるが、とても充実した２週間になると確信して早めに布団に入った。

「夕食のチーズ」

9月8日（月）

ホームステイ先での初めての朝ご飯。昨日の夜ご飯でも思ったが、本当に絵に描いたような食卓。バックミュージックはご家族みんなが好きだというロッシーニの歌劇「セビリアの理髪師」！私もとっても大好きな曲なので話も弾み、一気に距離が縮まったように感じた。

その後市庁舎まで送っていただき、この日初めてアミロー夫人とアシスタントのコリンヌさんにお会いした。とても気さくな方たちで皆でコーヒーをいただきながら今回のプログラムの大まかな日程や、文化交流では何をするかの確認を行い、一段とまた気合いが入った。

打ち合わせの後、市内を歩いて案内していただき、観光案内所や教会、美術館などを訪れた。トゥール市は立派な建築物と色鮮やかな花々に囲まれていて、とても趣があり、美しい場所だ。

お昼はダビットさんにブルターニュ地方の郷土料理でそば粉からできているガレットを食べにつれていってもらった。メニューを見たが、事前にフランス語の勉強をしてきたつ

「トゥール市美術館の庭」

「初めてのガレット」

もりだったけれど、さっぱり分からなかった。ダビットさんにいろいろと教えてもらい、私はハムとチーズのガレットにした。とても香ばしく、あっさりしていて食べやすかったが、見た目よりもボリュームがありデザートのクレープは食べられなかった。

お腹も心も満たされたところで午後からはザンガシアン大聖堂、サンマルタン聖堂を見学した。どちらも高い天井と静粛な雰囲気が印象的である。

その後バルザック高校へ向かい、日本語クラスにお邪魔した。日本から用意してきた自己紹介の文章を初めて読み、今回この研修生に応募した理由、幼い頃から音楽の勉強をしていること、今はＺＡＲＡで働いていること、国際交流に興味があること、トゥールで学びたいことなどを話し、私の最もお気に入りの曲のひとつである「宝石の歌」を歌った。緊張してぎこちなかったが、生徒は理解してくれたうえに、拍手までくれ、とても幸せな気持ちになった。その後も高校生の自己紹介を聞いたり、質問を受けたり、覚えておくべき語句を教えてもらったり、最後には集合写真を撮りとても有意義な時間を過ごすことができた。

9月9日（火）

午前中に小学校へ行った。私は折り紙を担当したのだが、これがまた難しい。子どもたちは私がフランス語を話せると思い、容赦なくフランス語で質問してくる。その姿はとても可愛いのだが答えられなくて申しわけない気持ちになった。言葉が通じないので子どもたちがこの文化交流体験についてどう思っているのかが分からなくて不安もあったが、質問タイムでは「明日も授業にきてくれますか」や「またフランスにきてくれますか」と聞かれ、とても嬉しかった。集合写真を撮るというとこれでもかというくらいべったりくっついてきて、別れが本当に寂しくて思わず涙がでそうになった。日本の伝統の折り紙が国境を越えた瞬間。

「小学生に囲まれて」

午後からは私が今回の研修の中で最も楽しみにしていたプランのひとつであるトゥール大劇場への訪問である。1794年に最初の形ができたというこの劇場は、1867年に市が買い取り、大工事を開始したという、とても歴史のある建物である。トゥール市はすごいところなんだ、ということをアピールするために非常に豪華な外観、内装になっていて、オリーブとかしの実をモチーフとしたロゴが入っており、自由と強さを表すそうで、香川県の県木でもあるオリーブが使われていることがなんだかとても嬉しくなった。

「大劇場」

実際に劇場の広報の方が付き添いで案内してくださった。ホールに近づくにつれて装飾がどんどん豪華になっていった。飾られている絵画や、建物の構造について細かいところ

まで説明してもらった。劇場にいれてもらい、そのうえ普段は見ることのできない衣装部屋や舞台裏までみせていただきそれだけでも十分に幸せなのに、ステージでも歌わせていただけることになった。何を歌うか迷ったが昨日も高校で歌った私の大好きなフランスオペラのファウストより「宝石の歌」と日本歌曲の「この道」を選んだ。素晴らしいホールに助けられ、いつもより少し上手に歌えた気がした。今回は研修生としてこの憧れの舞台で歌うことができたので、今度は歌い手としていつかもう一度このステージにたてるよう頑張ろうと心に誓い、劇場をあとにした。

その後職人徒弟制度美術館に行った。徒弟制度とは中世ヨーロッパにおいて、後継者の養成を行うために、親方と職人、徒弟という階層制度を形成し、技能教育を行ったものである。見学していると靴職人や革職人からパティシエまでさまざまな技術が伝承されていたことが分かった。日本のように古い建物を取り壊し、よりクオリティの高い現代的な建物に建て替える文化とは違い、古い建築物の修理をくりかえしその当時のままの形を残そうとするフランスの文化は、この‘職’に対しても同じことが言えるのではないかと感じた。

全ての見学が終わった後にホストファミリーと市内でショッピングを楽しんだ。カミーユちゃんとは同い年ということもあり、お互いの国では今何が流行っているか、どんなものが欲しいかなどファッションの話に花が咲いた。オススメしてくれるお店もどこも可愛くてあっという間に時間が過ぎた。

連日、朝から晩まで優しい人々に囲まれて素敵な街で充実した日々を過ごすことができている。このまま体には気をつけて明日からも精一杯力を尽くそうと思う。

9月10日（水）

今日は朝から打ち合わせを行ったあと、伴さんとダビットさんにパン屋さんに連れていってもらった。日本の倍はある大きさのパンがずらりとたくさん並んでおり、私はチーズの入ったサンドイッチとデザートを買った。その後サント・ラドゴンド公園へ向かいそこで食べた。天気の良い日に芝生に座ってみんなで食べる食事は格別で、とても気持ち良かった。また、この公園には高松から贈られた桜の木が植えられていて、花の咲く季節にはお花見が行われるそうだ。看板もたっていて「ＴＯＵＲＳ－高松の街」と書かれていてとても嬉しかった。桜を通してもっともっと日本のことを、そして高松のことを知ってもらいたいと思った。

その後マルムティエ高校へ訪問した。歴史のある学校でとても立派な建物と広い庭が印象的だった。日本語の授業にいき、まず生徒が日本語で自己紹介をしてくれた。この間バルザック高校へ行ったときも思ったが、多くのフランスの学生が日本語を勉強してくれていることはとても嬉しいことだ。そしてその多くが漫画やアニメがきっかけで日本に興味をもったみたいなので、私は普段どちらもあまり見ないけれども、もっともっと関心をもち予習してくるべきだったと思った。簡単な質疑応答のあと今度はわたしたちが自己紹介をした。今回も生徒たちがいい反応をしてくれたので自分の中では満足だった。毎日フランス語に囲まれていることもあり、ぎこちなかった発音も来たときよりは少しまともにな

った気がする。

高校をあとにし、トゥーレーヌ語学学校へ向かった。学校とは思えないほど素敵な建物でまるで美術館のようで、建物にはかつてフランスで活躍した画家などの名前がついていた。世界中から生徒が集まっているというこの学校は、いたるところから、英語にイタリア語、他にも多くの言葉がとびかっていた。庭でスポーツを楽しむ人がいれば、ベンチに腰をかけ本を読んでいる人がいたり、図書館で静かに勉強をしている人がいたりと、それぞれに自分の時間を大切に、また周りの人を大切にしていることが伝わってきた。整った設備と綺麗な庭と、何よりとても優しく親身な先生方に囲まれ、こんなにも恵まれた環境で勉強できることは幸せだなと思い羨ましくなった。

「語学学校の素敵なお庭にて」

夕方頃から初めてにゃんこカフェという日本でいう漫画喫茶に行った。漫画の他にもゲームやお土産、またたくさんの食材や置物があった。この日はうちわを作るとｆａｃｅｂｏｏｋに書いていたみたいで興味のあるフランス人が集まってくれた。作ること自体も難しいうえに説明がとても難しく悪戦苦闘していると、偶然、フランスで勉強しているという日本人学生が４人きていて、通訳してくれたおかげで、和気あいあいとうちわ作りに励むことができた。最後にうちわに伴さんが書道でそれぞれの選ぶ文字を書き、完成。みんなとても気に入ったようで、すぐに使ってくれてとても嬉しかった。言葉は通じなくても同じ時間を過ごし、お互いの心に歩み寄る気持ちがあれば、コミュニケーションはとれるのではないかと感じた。もちろんもっとフランス語が話せたらよかった、と自分の語彙力のなさに少し落胆もしたが、それ以上に多くの新しい人と出会い、高松の誇る‘うちわ’をフランスで広めることができて良かったと思った。

「うちわ作り」

9月11日（木）

トゥールは古城巡りで非常に有名だと聞いていたのでこの日は朝からわくわくしながら伴さんの車でシュノンソー城へ向かった。

ヴェルサイユ宮殿についでフランスでもっとも観光客の訪れる場所になっているそうだ。

到着後、お城までの砂利道を歩きながら「歴史上の人物もこの道を歩いていたのかな」と思うと、なんだか

「シュノンソー城」

同じ道を歩いていることが嬉しくなって背筋がピンと伸びた。次第に城が見え始めた。その美しさ、大きさは遠くからみても圧巻だった。

16世紀の創建以来、代々女性が城主だったため６人の女の城と呼ばれていたこの城は、それぞれの個性あふれる部屋があり、そこから強い自己主張や生き方が感じられ、この城の背景がぼんやりと見えてきた。

またディアーヌとカトリーヌのそれぞれの美しく、また性格がでて特徴のある庭や、いたるところに生花がいけられていたことも心に残っている。フランスでは造花を置くことを禁止されていると聞き、その文化に胸を打たれた。初めてのお城は想像をはるかに超える衝撃と感動の連続だった。

午後は今日もマルムティエ高校を訪問した。始めに生徒の日本語での自己紹介を聞き、そのあと質問をうけた。次は私たちの番である。この日の授業にはホームステイ先の三女セリアちゃんもいて、自己紹介と歌唱はいつも以上に緊張した。しかしセリアちゃんを含め皆とても関心をもってくれ、安心した。

「セリアちゃんと一緒に」

日本語でフランスの学生とコミュニケーションをとることができ、改めてこのように我が国日本に興味をもって勉強してくださる人がたくさんいることのありがたさと、直接関わることのできる喜びを感じた。

家に帰るとセリアちゃんが家族に今日の私の歌がとても素敵だった！と話してくれていたみたいで、夜ご飯の時間はセビリアの理髪師をバックミュージックでかけながら、歌のこと、好きなオペラのこと、お気に入りの歌手のことを家族みんなで話し、とても素敵な時間を過ごすことができた。

9月12日（金）

「レオナルドダヴィンチのお墓」

昨日に引き続き今日も古城巡りとしてアンボワーズ城へ向かった。昨日のシュノンソー城とはまたガラリと雰囲気が違い、フランス歴代の国王が居住していたと言われているだけあり、その威厳と迫力が今もまだ残っていた。また国王フランソワ一世により招かれた誰もが知っているあのレオナルド・ダ・ヴィンチはこの地で亡くなり城内の礼拝堂に眠っているそうだ。そしてダ・ヴィンチが最後の３年間を過ごしたというクロ・リュセ城へ向かった。ここへ来るまで私は彼の本職は画家だと思っていたが実は発明家でもあり多彩な才能を持っていた人だと知った。城の庭には彼が発明した多くの作品があり、そのどれもが素晴らしく、現在の発明のヒントになっているものが多いのではないかと感じた。

お昼ご飯は伴さんに「どこのお店で食べたいか２人で考えてみて！」と言われ、必死にお店の外にでている看板を見た。フランスに到着して１週間が経ち、以前よりは少しメニューを理解できるようになったことに安堵しつつもやはり自信を持って「ここがいい」と決められるまでの語彙力はなく、結局この日も伴さんチョイスで素敵なお店での昼食となった。

午後はセグウェイという電動立ち乗り二輪車で城の周りを観光した。ただこのセグウェイ、私にはとても難しく、初めはかなり苦戦した。しかし慣れてくると風を切って走ることが気持ち良くなり、初セグウェイと丘の上からの景色を存分に楽しむことができた。

その後トゥール市にあるトゥーレーヌ語学学校へ向かい、フランスにお住まいの日本人の麗子さんとその生徒さんにお会いした。皆さんとても日本語が上手で、麗子さんお手製の教材を使用しながら私たちに丁寧にフランス語を教えてくださった。また絵や習字などの作品を見せていただき、短時間だったがとても濃い時間を過ごすことができた。

夜はファミリーが明日から日本に留学するカミーユちゃんを見送りにパリへでかけていたので、高松市にも住んでいたことのあるソフィーさんにレストランに連れていってもらいガレットとワインをいただきながら、会話を楽しんだ。とても明るく気さくで、また非常に勉強熱心な方で、特に日本の植物について研究されているらしく、日本人の私が知らないことをたくさん教えてくれた。どの話も興味深いものばかりで、充実した時間を過ごすことができた。

「素敵なレストラン」

フランスに来てはや１週間。そして残りあと１週間。限られた時間の中で更に多くのことを学びたいと強く思った。

9月13日（土）

今日は大岡君のホストファミリーと一緒にテニスをした。小学生の頃６年間習っていたが、運動することが久しぶりだったため今はもう体力がなく全然ついていけなかったが、久しぶりに体を動かして気持ち良かった。

「スペインの家庭料理」

その後、家に招待してくれた。マンションの４階に住んでいるみたいでエレベーターに乗りボタンを押すと、ガタンと大きな音がして止まってしまった。まさかフランスでエレベーターに閉じ込まれるなんて思っていなかったうえに、初めてのことだったのでとても不安になった。しばらく待っていると無事に扉が開いたが、こっちにきて一番怖い体験だった。気を取り直してお昼ご飯の時間。ルイスさんが母国のスペインの家庭料理をふるまってくれた。

ピリ辛のチョリソーと豆がとても美味しくておかわりまでした。

その後2回目のにゃんこカフェへ行った。この日もうちわ作りと書道を通して多くの方と交流することができた。先日協力してくれた学生の皆さんもきてくれ、今日もまたたくさんフォローしてくれた。勉強で忙しい中、こうして時間を作ってきてくれたことがとても嬉しかった。

そしてこの日は伴さんの知り合いのフランスで勉強されている声楽家の方もきてくださりお会いすることができた。日本ではどう勉強していたか、どんな活動をしてきたのか、またフランスに留学しようと思ったきっかけなど、たくさんのお話を聞くことができた。アドバイスもいただきモチベージョンがあがった。人と人のつながりは本当にすごいと実感した一日だった。

9月14日（日）

フランスにきて初めての休日。日本では恐らく最も多くの人が外出し、街が賑わうのが日曜日だが、フランスでは「休日は家で休むための日」であり、ほとんどのお店が閉まっているため午前中はのんびり過ごした。

午後から大岡君とホストファミリーが私の家へ訪れ、皆でお昼からフルコースをいただいた。食事に3時間、その後1時間半の散歩。本当に家族での時間や会話を大切にしていることが伝わってきた。日本に帰ったら私ももっと家族や友人、周りの人との時間を大事にしたいと感じた。久しぶりにゆっくりでき、この生活スタイルが日本にも必要なのではないかと思った。

「みんなでお食事」

9月15日（月）

「美しいヴィランドリー城」

この日はいよいよヴィランドリー城まで自転車で往復およそ40kmも走るという日。ゆったりと流れるロワール川沿いに「ロワール・ア・ヴェロ」というサイクリングロードが整備されており、非常に人気で多くの人が利用すると聞いていた。いきなり40km自転車で走ると聞いても実感がなく、なんとかなるだろう！とペダルを漕ぎ始めた。最初は変わりゆく景色にみとれ、トゥールの街は本当にどこを見ても美しいなあ、と、そして普段は街の方をメインに動いていたので森林や人通りの少ない道ではいつもより自然の広大さを感じることができて本当に良かった。

とうもろこし畑を見つけたときはどことなく日本に似ていてなんだか少しホッとした。だがそんな呑気なことをいつまでも言っていられる訳でもなく、自転車を漕ぎ始めて2時間ほど経った頃から疲れが出てきた。ゴールのヴィランドリー城まであとどれくらいなのか見当もつかないまま、ただひたすら進むことしかできず、いつになったら着くのだろう。このまま体力はもつのかな。と少し不安もあったが、2時間半で到着した。足腰がとても痛かった。

このお城の所有者であるヨアキム・カルヴァロが城の建築とぴったり調和するように、また各部屋から景色が楽しめるようにと造った庭園で非常に有名だそうだ。その幾何学模様の広大な庭園の美しさは私の想像をはるかに超えるものであった。色とりどりの花々と、きれいに整えられた緑が創り出す庭は本当の絵のような世界だった。その隣にはかつて「装飾的菜園」と呼ばれていた菜園もあり、自然に溢れていて、歩いているだけでとても気持ちが良かった。

「幾何学模様の庭園」

その後、隣のレストランで昼食をとった。ここは野菜を中心にしているみたいで、ヘルシーかつボリュームもありとてもお腹いっぱいになった。満腹での自転車は心配だったが、皆で歌ったりいろんな話をしたりしながらだったので、行きよりもあっという間に感じた。普段はなかなか機会がないので、長距離サイクリングを経験することができて本当に良かったと思う。

トゥール市まで戻ってきてから、フランソワ・ラブレ大学へ行った。大岡君が専門的に勉強しているGPSを使ったデータの分析などを研究している教授のお話を聞きに行った。無知な私にも分かるように動画や資料を交えながら詳しく説明してくださり、自分の勉強したことのない新しい分野の話を聞くことができてとても有意義な時間だった。

この日は帰宅後すぐに寝てしまい、体が痛くて何度か目が覚めたものの、気付くと翌日だった。

9月16日（火）

朝から市庁舎の見学をさせていただいた。毎日市庁舎前が集合場所だったが中を見るのは初めてだった。ヴィクトールラルーによって市民にとって身近なデザインに作られ、建物の上部には‘教育’を表す像があり、ＲＦ(フランス民主主義)というロゴも入っている。フロアでは展示会や作品展が行われたり、また壁には世界大戦で関わった人の名前が書かれているため、多くの学生が社会科見学として利用するそうだ。そして今では3500人もの人がここで働いているらしい。

実際に入ってみてその豪華さに驚いた。高い天井にレッドカーペット、螺旋階段は日本のかっちりした雰囲気とは違い、非常に華やかでまるでお城のようであった。

その後ディドロ小学校へ行き、書道の授業を行った。前回小学校へ訪問したときと同様、小学生は私たちがフランス語がペラペラだと思っており、この日も質問攻めにあった。答えられないことは申し訳ないが、無邪気にひっついてくる子どもたちはとても可愛い。いざ筆をもつとさっきとはうって変わって真剣な表情になり真面目に取り組んでくれた。それぞれ個性がありどの作品も素敵だった。帰る前には黒板に何度も何度も「ＲＹＯ　ＡＳＡＫＯ」と私たちの名前を書いてくれとても嬉しかった。そして例え１時間しか一緒に過ごせなくても別れは本当に寂しかった。

「書道を楽しむ小学生と」

その後市庁舎に戻りレセプションが行われた。ホストファミリー、市議会議員の方、国際交流会の関係者、日仏協会の方に加え、私たちがこの研修の中で出会った高校生、声楽家、留学中の学生、他にも多くの方が集まってくれ、その光景をみただけで涙がでそうになった。

そして最後のスピーチと日本の名歌‘さくらさくら’の歌唱。こんなにも素晴らしい会場で多くの素敵な方々に囲まれてこの場にたてるなんて、本当に幸せ者だと思った。そしてトゥールでの10日間が走馬灯のようにかけめぐった。大変だったこともあったがそれ以上に得るものの多い日々だった。このような貴重な経験ができたことは、これからの私の人生において非常に大事な通過点になったと感じた。出会いに感謝。

「レセプションにて」

9月17日（水）

トゥール最終日。昨夜は「明日にはここを離れなきゃいけないのか」と考えるとあまり眠れなかった。いつもと変わらず家族との会話を楽しみながら朝食をいただき、ホームステイで過ごした10日間、至れり尽くせりな毎日で何不自由なく過ごせたことと、出会えたこと、受け入れてくれたことへの感謝を手紙に書いてそっと置き、駅まで送ってもらった。駅では大岡君のホストファミリーと、伴さん、ダビットさん、コリンヌさんがお見送りにきてくれていた。別れはとても寂しかったが「必ず再会しよう。」と約束をし、また絶対に戻ってくる！と心に誓い、ＴＧＶに乗り込んだ。ありがとう大好きなトゥール。

「ホームステイ先で最後の朝食」

パリへ向かうまでの車内からの景色を楽しんでいると、あっという間に着いた。もっと乗っていたいくらいだった。

ホテルに荷物を置き、エッフェル塔と凱旋門を見に行った。どちらも想像を超える美しさと迫力で私たちを圧倒した。フランスは全ての建物が本当に美しい、そして歴史を感じるものばかりである。

「エッフェル塔」

夜は市役所の職員で今はパリで駐在員として働いている細川さんがレストランにつれていってくださった。ガイドブックにも載っている有名なお店らしく、多くの日本人がいて少しホッとした。地下鉄の乗り方や、効率のいい観光スポットの周り方を教えていただきながら食事を楽しみ、ホテルの周辺や駅構内を案内してもらった。右も左も分からない状態だったのでとても助かった。フランスに来てから毎日多くの人の支えの中で研修旅行が出来ていると再確認した一日だった。

9月18日（木）

朝一番、明日の飛行機の欠航が決まった。週の始めにエールフランスがストライキを始めたことは知っていたが、昨日まで私たちの便は通常通り運行することになっていたのでまさかこんなことになるとは思っていなかった。連絡をもらったときはかなり驚いた。しかしその後すぐに国際交流協会の方を始め、多くの方が素早い対応をしてくれ、昨日お会いした細川さんがEチケットの印刷や空港までのシャトルバスの手配などをしにわざわざホテルまできてくださり、本当に感謝の気持ちでいっぱいになった。

気を取り直し、今日は大岡君とフランスで見られる限りの世界遺産をみよう！と決めていたので朝からルーヴル美術館へ向かった。昨日も地下鉄を利用していたこともありスムースに到着することができ安心した。

「ルーブル美術館の外観」

ルーヴル美術館は思っていたよりはるかに大きく、有名な作品を見つけるだけでも大変だったが、レオナルド・ダ・ヴィンチの‘モナリザ’を見られたときの衝撃は大きかった。

本当にどこの角度から見ても絵の女性と目が合う。言葉にはできないくらい感動した。これからはできる限り多くの美術作品を見てもっと感性を豊かにしていきたいと思った。‘美術’に対して無知な私でも、どの作品からも壮大なエネルギーを感じることができ、有意義な時間を過ごすことができた。

その後オペラ座、サクレ・クールの丘、ノートルダム大聖堂と、可能な限りで観光スポットを巡り、身も心もお腹いっぱいな一日だった。

「憧れのパリ・オペラ座」

9月19日（金）

フランス最終日。朝から大岡君とホテルで朝食をとった。パリに来てからは何かと慌ただしかったので、こうしてゆっくり時間を過ごすのは久しぶりに感じた。２週間毎日食べていた種類豊富なチーズもしばらくは食べることがないんだなと思うと、ついつい欲が出て、お腹がはち切れるくらい食べた。幸せな満腹である。

荷造りをしてシャトルバスに乗り空港へと向かった。搭乗手続きもスムーズに済み、いよいよ飛行機に乗り込んだ。達成感と終わることへの寂しさで複雑な気持ちではあったが、それ以上に疲れていたのか機内では行きと同様、食事の時間以外は眠りについていた。

9月20日（土）

無事に成田空港に着き、羽田空港へと向かった。周りもほとんどが日本人で日本語が飛び交い、一気に帰国したことを感じた。お腹がすいていた私たちは香川まで我慢することができず、空港でうどんを食べた。ホッとひと息。しかしここで油断するわけにはいかない。「高松に帰るまでがフランス研修」。気を引き締め、高松行きの飛行機に乗り込んだ。目が覚めると高松だった。高松市国際交流協会の方と両親が迎えに来てくれていた。皆を見たとき、安心してなんだかとても穏やかな気持ちになった。親善研修生としてフランスに行くことができて良かった、純粋にそう思った。

親善研修生　報告書Ⅱ

感想文

トゥールが教えてくれたこと

株式会社ザラ・ジャパン　山地朝子

今年から社会人枠ができたということで、以前から自分の勉強している音楽を通しての国際交流に非常に興味・関心があったため、応募しました。現在ファッション関係の仕事をしていることもあり、音楽とファッションにおいて非常に有名なフランスという国に研修生として行くことは、間違いなく私の人生に大きな影響を与えると思い、大きな野望を抱えていざフランスへ行きました。

今回の研修の最も大事な異文化国際交流の時間には、私たちが準備していったうちわ作り体験や折り紙を通して、小学生から大人まで本当に多くの人と関わることができました。日本に興味をもってくださっていることがとても嬉しく、こちらももっと伝えたいという気持ちになり、非常に有意義な時間を過ごすことができました。例え言葉が通じなくても、一緒に過ごした時間が短くても、どんな時でも別れは辛く、でもそれは、充実し、幸せな時間の証だと思いました。

また私は高校生の頃から特に声楽を学んでいたこともあり、多くの場所で、日本で最も有名な曲のひとつである‘さくらさくら’を歌う機会を与えて頂きました。日本の歌曲の美しさを伝えること、歌を通して人との距離を縮めることを目標に心をこめて歌いました。皆さん温かく見守ってくださり、拍手までいただき胸が熱くなり、音楽に国境はないと再確認することができ、自分自身にとって非常にプラスになる経験になりました。これから先、多くの日本歌曲がフランスで流れることを願っています。

そして実際にフランスに行き一番心に残っていることは、フランスでは家族や友人はもちろん、関わりのある全ての人、また建物などをとても大事にしている国だと感じました。毎日の食事を家族で時間をかけて楽しむこと。街中で挨拶が飛び交っていること。歴史ある建物を壊さず修理し保存し続けること。素晴らしい文化だと思いました。

やはり国際交流や異国を知るためには、私は現地へ足を踏み入れ自分の目で見て、肌で感じることが最も大切だと思っています。‘百聞は一見にしかず’ということわざがあるように、一度でも体験すると多くのことを吸収することができ、それがまた次への目標や夢に繋がると再確認することができました。

今回のこのプログラムは個人の旅行では絶対に経験できないことの連続でした。手厚いサポートをしてくださった全ての方に感謝しております。そしてこの経験を生かし、今後ますます自分自身の向上に精進し、同時に高松市の国際交流に貢献していきたいと思っております。